

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0570206789
法人名	有限会社 クラウド
事業所名	グループホーム 集い
所在地	能代市高埜 58-8 (電話) 0185-89-8030
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 21年 8月 18日

【情報提供票より】(平成21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階建ての ~ 1・2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~23,000円	その他の経費(月額)	1,039円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	無円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2		2名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.5歳	最低	78歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平野 医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念にもあるように「家族のような」支援を目標にしている事業所である。利用者との関係も心の深いところでの結びつきを目指しているとのことだった。事業所と道路を挟んだ向かい側に大型のショッピングモールがあり、買物や外出などの要望にもすぐに応えられる環境にある。通院の送迎や外出のための車も用意されている他、建物の2階部分への移動には電動リフトが備えられている。職員には常勤の看護師がいる他、事業所の近くに土日・急患対応してくれる嘱託医が勤務する病院もある。医療機関との連携が密であることから、家族・利用者からの安心も得られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で挙げられた「チームケアにつなげるための職員間の定期的な会議」については必要に応じミニケアカンファレンスを実施している。また、「職員のレベルアップのための研修参加と報告の機会」については、管理者が職員に情報提供し、研修報告や情報収集などが行われた。 今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	管理者はじめ職員は自己評価の結果に基づき、優先順位をつけながら改善の取り組みを行っている。自己評価の意義を管理者はじめ職員は理解しており問題意識を持ってサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は3ヶ月に1回行われ、検討事項、懸案事項について話し合いが持たれている。市長村との連携を心がけ、情報収集や情報提供など行っているが、今後更に連携を深めていくことも期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族へは毎月、個別に金銭出納の報告とともに、利用者の状況等のお知らせをしている。これまで苦情等の申し出はないが、家族との連絡時には必ず要望を聞くなどし、家族や本人の意向がより反映されるサービスの提供を心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は新興住宅地にあり、向かいにショッピングモール、隣に県立高校等が立地している。町内会行事等、地域住民との交流は現在はないができていない状況であるが、事業所としては自然体で地域に溶け込み、少しずつ認知されていくよう努めている。

2 . 評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく暮らすことを、家族のように支える」という運営理念を作り上げ、玄関のよく見えるところに掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、利用者が家族と家で暮らしているように感じられる支援を目指しており、その考え方は日々の取り組みに反映されている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周囲には大きなショッピングモールと高等学校がある。新興住宅地に位置しており、地域とのつながりはあまりないが、地域活動への参加や町内会との交流については自然体でできるよう努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員の話をよく聞くよう努めており、自己評価結果や外部評価の意義もよく理解している。問題意識を持って具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、市町村や家族が参加して、3ヶ月に1回事業所で開かれている。利用者の状況やサービスの課題などの報告や話し合いを行っている。参加できない家族へは話し合いの内容を送付している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村へは、法改正や事務手続き等、問い合わせ事項があったときなどに直接訪問し、助言を受けている。その際に情報提供を受けたり、情報交換をするなど、連携に努めている。</p>		<p>市町村との連携をさらに密にすることを事業所も望んでおり、今後の取り組みが期待される。</p>
<p>4.理念を实践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の金銭出納帳等を用いて金銭の管理状況を家族に報告しているほか、管理者が職員から報告された利用者の生活状況も個別にお便りで知らせている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>これまで家族や利用者からの苦情等はなかったが、玄関に苦情受付箱を設置し、また家族と話す際は必ず苦情の有無や家族の要望を聞き、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職に際しては家族を失うような寂しさを感じる利用者が多いので、離職という言葉を避けソフトな表現をするなど、細やかな配慮を心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任の職員については、1~2週間くらいは現場で先輩職員について実際の業務を行いながら研修をしている。介護技術等については管理者が直接指導している。法人外研修についてはなかなか参加できない状況ではあるが、研修資料を取り寄せたり、情報提供をしている。</p>		<p>職員勤務の状況から、職員を外部研修に派遣するのが困難な状況もあるが、情報や資料を取り寄せたり、DVD等を活用するなど、できるだけ内部研修の充実を図っていくことも期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者はグループホーム協議会等へ参加し、情報交換や情報収集に努めているが、近隣のグループホーム間での交流研修はない。管理者の情報網を活用し、県外のグループホームとの情報交換を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が利用開始するまで、最低でも見学等で2回は事業所を訪問してもらい、家族との相談を行いながら徐々に馴染んでいけるよう働きかけを行っている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「一緒に暮らす家族のように」支援することをモットーに、職員は畑作り、収穫、洗濯など利用者一人ひとりができることを一緒に行っている。また、職員はできるだけ多くの時間を利用者と共に過ごし、自分の家族と接するような話し方を心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者一人ひとりから本人の希望を聴き取り、アセスメントシートに記録している。また、家族との連絡時にはその都度家族の要望を聞いている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の話をよく聴いた上で、ケアマネジャーを中心に職員等でミニカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを反映したケアプランを作成している。引継ぎやお茶の時間など、職員が話し合う時間を有効に使うよう心がけている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度ケアプランの見直しを行っている他、病状等状況の変化があれば家族に説明し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所で通院の送迎を行っている他、看護師が常勤しており、医療面でのアドバイスを行っている。また、家族から事業所に宿泊したいという希望があれば、受け入れる体制も整っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医に定期通院し、また健康診断も受けている。事業所から車で10分程のところにホームの嘱託医の勤務する医院があり、土日・急患の対応をしている。また、必要に応じ歯科医が往診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の事業所の指針として、例えば「介助しても食事を摂れなくなった」状況では事業所での支援は困難であることなど、ターミナルケアに関わる話し合いを早い時期から家族と行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の観点から、事業所のお便りに写真を載せること等はせず、利用者の家族には状況を個別に便りで知らせるなど、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所で行っているレクリエーション等は本人の希望に添って行われ、日課への参加を無理強いすることはない。利用者から希望があれば、買物などを優先させることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時は二人の職員が利用者と一緒に食事を摂っている。食事の準備、片付けの際も、それができる利用者へは声を掛けてなるべく一緒に行うようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は水曜を除いて毎日行っている。職員がマンツーマンで介助しており、利用者一人ひとりの入浴はおおむね週2回程度に保たれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	民謡や畑作りなど、利用者一人ひとりの趣味や生活歴を大切に、職員は一緒に時間を共に楽しみながら過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの向かいがショッピングモールになっており、日常的に利用者の買物等の希望に対応している。また、事業所の所有している車を用いてドライブ等も行い、外出希望に応じている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は一切施錠せず、夜間は玄関の戸締りをしている。居室入り口にはセンサーがついており、トイレ誘導や夜間の介助の際はすぐ対応できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、避難訓練を消防署立会いの下に行っている。また、職員は救命救急講習を受講している。地域の人々との災害時の協力体制等については今後働きかけていく予定である。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの、一日の食事摂取量や水分補給の状況は介護日誌に記録し、把握している。</p>		<p>今後は摂取量や栄養のバランス等について栄養士のアドバイスを参考にしていきたいとしているが、その際には利用者個々の詳細な食事摂取のデータ等を整備し、より効果的な助言を得ていくことも期待される。</p>
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所の2階部分へ移動する際は、電動リフトを利用できるようになっている。窓は大きく採光に優れ、景色を楽しむこともできる。調度品や飾りつけも一般の住宅のような落ち着きがあり、居心地がよい。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の床は畳とフローリングの2タイプある。寝具も布団・マット・ベッド等が使用でき、それまでの生活習慣に対応できるようになっている。居室の広さもそれぞれ異なり、利用者の希望が反映されるようになっている。自宅からお気に入りの筆筒や椅子などの家具、写真や人形等が持ち込まれており、思い出の品々に囲まれた居心地のよい部屋作りの工夫をしている。</p>		

は、重点項目。